

子どもとメディア 北海道

第16号

2014年
4月発行
今期第4号
今期最終号



ビッグニュース

会員さんには、特集ページを同封します。感想などお寄せ下さい！

諏訪代表、福音館書店の「母の友」4月号の特集で、7ページにわたり登場!!

～「母の友」との出会い～

子どもとメディア北海道代表 諏訪 清隆

このたび福音館書店の「母の友」という雑誌の「スマホに子守りをさせないで」という特集で私の話をとりあげていただきました。

今回、記事にさせていただくまでにはいくつもの御縁がありました。

始まりは2010年になります。子ども達の発達のこと旭川市のいずみ保育園さんと連携をとらせていただく機会がありました。園長先生はとても熱心で子どもたちの発達に強い関心をお持ちでした。その年の7月に「子どもとメディア北海道」が設立された際にご報告を差し上げましたところ、会の主旨にご賛同いただき会員にもなって下さいました。その後も勉強会に呼んでいただいたり、2011年からは当会のアンケートにご協力いただくなど、今でもたいへんお世話になっています。

そのいずみ保育園さんが道内のたくさんの保育園とつながりのある旭川こどもの友社さんに当会を紹介して下さったのは2012年のことです。旭川こどもの友社さんも当会の主旨に賛同して下さい、保育園での講演会の仲介役となって下さいました。また、2013年の夏には保育士さんを中心とした文化セミナーでの発表の場を与えていただきました。

昨年11月、「母の友」を発行している福音館書店の方がスマホと子どもたちの特集を組むにあたり話を聞くことができる人を探されていることを知り、真っ先に私を推薦して下さいましたのが旭川こどもの友社の方です。

12月初め、福音館書店の担当の方が遠路東京から私の勤務先まで取材にきて下さいました。その後、何度かの校正を経て「母の友 4月号」に掲載されるに至った次第です。

「これも何かの縁」という言葉をご存知でしょう。今回、記事にさせていただいたのもまさに「縁」があったからです。子どもたちを大切に思うたくさんの方々の気持ちの結びつきによるものだと思います。

「子どもとメディア北海道」も会員の方々が子どもたちを大切に思う気持ちでつながっています。このつながりを強め、広めながら前に進み続けたいです。

今回、私にとって「母の友」という雑誌に出会えたことはとても貴重な体験となりました。バックナンバーを興味深く読ませていただき、子育て中の親御さんにはぜひとも読んで欲しい雑誌だと強く感じています。

私が特集の中で伝えたかったことは「母の友 4月号」を手にとって読んで下さい。みなさんもきっとこの雑誌に興味をもたれることでしょう。「これも何かの縁」です。新たな本との出会いになるかもしれません。

第7回子どもとメディア全国フォーラム スマホ社会の子どもたち～その危険と可能性～

2014年2月22日・23日 福岡市にて開催 < 参加した会員からの報告です >

★2か月前、当会会員の西村篤子さん(白老町)と中谷が、1泊二日の強行軍で福岡で学んできました。(自費)
2人で参加したことで、道中はもとよりその後も意見交換ができ、「研修に複数で参加する良さ」を実感しています。西村さんが、1日目の全体会と、2日目の二つの分科会での報告を、ご自身の意見も交えながら、手書きで書いて下さいました。手書きの文章が心地よく、読みやすかったので、そのまま掲載させていただきます。中谷の報告は、2日目の1つの分科会についてです。じっくりお読みくださいませ。

「NPO子どもとメディア」で作成している本フォーラムの報告書の中で、分科会A3の報告を中谷が記述することになりました。その報告をここでも使わせていただきます。

分科会A3 「インストラクター技術研修」～子どもを守るスマホ設定～

子どもとメディア北海道副代表 中谷 通恵

4年前に福岡で、子どもとメディアインストラクター養成講座を受講し、偶然に出会った北海道からの受講者2人が「子どもとメディア北海道」を立ち上げました。年4回情報誌を発行したり、今年度は全道各地で30件ほどの講演依頼を受けて活動しています。

私は、昔小学校の教員をしていた経験や20年来子育て支援活動をしてきた中で、子どもの成長発達に電子映像メディアが与える影響を看過できないと感じ、インストラクターになりました。そのため、乳幼児期の子どもの発達への影響や、乳幼児期の親御さんへのメディアコントロールの必要性の啓発は、ある程度自信を持って伝えていけるのですが、年々変化するネット環境、情報端末機器については、一般の方より知らないことが多いのです。

スマホに至っては、持っていないどころか、ほとんど触ったこともありませんでした。ただ、昨夏の「中高生ネット依存推計51万人」の情報が回ってから、講演依頼も「情報モラル教育の充実」や「家庭でのルール作りの実施」などをいただくことが多くなり、学ぶ必要を強く感じて、「ついていけるか」という不安を感じながらも、この分科会を受講しました。

講師の先生方の説明は、簡潔でわかりやすく実践的でした。感想や学んだことを述べます。

- ・ i P h o nでは、さまざまな機能を制限できるが、側にアドバイスをしてくれる人がいないと誰でも容易にはできないのではないかな。
- ・各ケータイ電話会社によって違いはあるが、まずは i P h o nフィルタリングを勧めることが大切である。
- ・子ども達が現実利用している機器である i p a d t o u c hやゲーム機にも対応できたり、使用する曜日や時間を設定できる「i-F I L T E R」というアプリは、優れものである。
- ・保護者に説明する時には、基本的な知識の前ふりが重要。(私もこの説明があってよかったです。)
- 「ブラウザって何?」「ホームページを見るためのソフト、ウェブサイトを見るための外枠」
- 「アンドロイドって何?」「 아이폰じゃないスマホ」
- 「アプリって何?」「スマホに追加する機能。例えば、通話のアプリを取り込んで初めて電話ができる」
- ・中高生向けの授業では、デジタルアーツ製作の「スマホにひそむ危険疑似体験アプリ」を利用すると効果的。(無料で使用できます)
- ・「情報発信の注意から見える男女差」の図は、大変参考になった。(*)
- ・未成年のインターネット利用は、「パソコン+ブラウザ」ではなく、「スマホ+アプリ」であるから、それに対応できるブラウザ型のフィルタリングを入れることが必要。
- ・「フィルタリング」や「機能制限」を使って、サイトやアプリの利用を制限されて初めて子どもは自分で考えるし、親と話すきっかけになる。なので、「禁止→許可」をコミュニケーションにすることが大事。
- ・プライバシー対策として、位置情報には気をつける。また、盗難対策として、「画面をロックすること」を大人子ども関係なく行うことが必要。
- ・「フィルタリングでラインが使えない」と子どもは言うが、それは違う。例えば、i P h o n機能制限を使うと、ラインのアプリをインストールした後に、「設定」～「一般(暗証番号)」～「機能制限(インストール制限)」をすれば、他のアプリは使えない。
- ・ゲーム機での機能制限の方法もいろいろある。例えば、任天堂のホームページから、「保護者のみなさまへ」に入ると、「ブラウザを使わせない」の項目もある。

以上、自分なりの理解の範囲で報告させていただきました。

北海道でも、中高生のスマホ普及率は上がってくるのは間違いありません。

これまで同様、「子どもの発達段階を考え、健康な心と体を保障することを考えてスマホを持たせる時期を決めてほしい」という持たせる前の保護者への啓発活動とともに、持たせる決断をした保護者に対しては、「フィルタリング」と「ペアレンタルコントロール」についての具体的なアドバイスをしていけるようになりたいものです。

まずは私のこれからの課題は、これらの学んだことについて、実際に試してみることでしょう。

さて、誰のスマホを借りましょうか？

前号掲載から 2014 年 4 月までの活動報告

月日	テーマ	行事名・主催者等	担当
2月5日	子どもとメディア（行政の事業中心）	黒松内町生涯学習委員	中谷
	子どもとメディア	黒松内町一般町民	
2月8日	子どもとメディアの良い関係	日高子ども会育成者研修会	中谷
2月12日	子どもとメディアの良い関係	新篠津教育委員会（小中P）	中谷
2月15日	子どもたちと電子メディア～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	士別市子育てサポート むっくり	諏訪
3月2日	子どもとメディアの良い関係	生活クラブ学習会（札幌）	中谷
3月13日	子どもたちと電子メディア ～小中学生のメディア教育～	旭川市教育委員会	諏訪
3月16日	子どもとメディアの良い関係	新日高町青少年育成	中谷
3月18日	子どもとメディア	網走市文庫活動等関係者	中谷

【会員のみなさまへの連絡です】

- ① 前号でお知らせしていましたが、平成26年度『子どもゆめ基金』の助成金への応募についてです。応募当時は予定になかったのですが、旭川教育大学の村田先生が、26年度より福岡教育大学に転勤することになりました。そのため、村田先生と研究室の学生さんとの共同事業「情報モラル教育を重視した親と子のためのIT教室」は、実施が難しくなったため、今年度の申請は取り消すことになりました。
- お手伝いを申し出てくれていた会員さんもおられ、残念ですが、今後も情報誌の発行以外の活動にも取り組んで参りますので、どうぞよろしく願いいたします。
- ② 前号に同封しました「アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。（4名回答）
- ・情報誌の発行回数や受けとり方法は今まで通りで良い（電子情報でも欲しい方がお1人）。
 - ・発行済みの情報誌を、ホームページに掲載することに関しては、全員が賛成。
 - ・年会費については、今まで通りで良いが、必要なら上げて良い方が3名。
 - ・研修会を開催する場合は、自分のできる範囲で手伝いたい方が全員。
- ご理解ご協力、ありがとうございます。
- ご支持いただきました「ホームページでのPDF化した情報誌の掲載」は、随時行っていますので、時々「子どもとメディア北海道」のホームページも、チェックして下さいね。
- ③ 詳細については、まだ決まっていないのですが。
- 当会の代表諏訪清隆先生を、白老町にお招きして、講演会と交流会を実施できそうです。
- 8月末から9月の土曜日に、白老町で諏訪先生の講演会を実施し、夜に会員同士の交流会を持ちたいと計画中です。
- 次号（7月発行予定）の情報誌で、詳細については報告して、みなさまにもご案内しますので、楽しみにして下さいます。ぜひ、白老町にお越しくださいませ。
- ④ 会員更新の時期となりました。
- 平成26年度の会費の納入をお願いいたします。申し込み用紙を同封しましたが、情報誌の送り先が変更になる方以外は、申込書の返信は要りません。年会費（1500円）を、手渡しか、郵便小為替にて納入ください。ご面倒をおかけしますが、何卒よろしく願いいたします。
- 平成26年度の情報誌の発行予定月は、7月・10月・27年1月・4月の4回となります。